



3年生総合的な学習の時間 開成南小 10年の軌跡

10月28日(月)
11月8日(金)

今年度、開成南小学校が10年目を迎えていることは御存知の方も多いと思われます。

3学年から総合的な学習の時間が始まりますが、今年度の3年生は、「すてき発見開成町 開成南小学校を知ろう」というテーマで学習活動を行い、10/28(月)は開校当時の町長を、11/8(金)には初代校長先生をゲストティーチャーにお迎えして、学びを深めました。

開校当時の町長からは、開成町や周辺一帯の魅力やまちづくりの変遷、これからの開成町について等、児童が日々生活する開成町のすてきな魅力を、たくさん教えていただきました。

また、開成南小の初代校長は、元開成幼稚園長、現在は開成町教育長でもあり、学区在住の地域住民の一人としても、多くの御尽力や御心配を賜っています。中から外から、そして開校以来10年の軌跡について、様々に継続してご覧いただいている経緯もあります。今回は「学校創設時の工夫と苦労」についてお話を賜りましたが、当初の工夫や苦労はもとより、10年間変わらないものや10年間で変わってきたことなども、お考えや感想をおうかがいすることができました。

「たかが10年、されど10年」。この言葉の意味を深く考えてみる、よい機会ともなりました。

3年生も来年度は10歳になります。自分が生まれてからの人生と自分が生活する町や学校等の変遷を比較してみるのも、味わい深いと思います。ただし、スピード感が違うので、まずは10年後の自分をとらえてみるあたりから始めてはいかがでしょうか。温故知新の考え方にもつながるでしょう。すてきな未来を！



開校時の学校周辺



現在の学校周辺



ようこそ先輩！ お久しぶりです！！



11月6日(水)



11/6(水)に文命中学校2年生6名の生徒が、開成南小学校への職場体験学習にやってきました。本校の卒業生も多く、朝の職員室での緊張した自己紹介と、かつてお世話になった教職員との笑顔の再会から始まり、校時が進むうちに徐々に児童へ溶け込み(戻り?)、心に残る一日となったのではないのでしょうか。

思い出深い教室、友達や後輩たちと駆けまわったグラウンド、楽しみだった小学校給食など、一つひとつの活動に様々な思いがよみがえったことでしょう。

けれども、懐かしい場所ではあっても、既に巣立った場所でもあります。今は中学生という立場で学びを一層ステップアップしており、学習の中で「学校」という職業現場のいくつかの質問や疑問を抱いて来校した生徒もいましたが、果たしてその答えを見つけられたのでしょうか？

心身共に、確実に成長を感じられる先輩方、またお越しくください！





足柄上郡小学校音楽会 4年生の音楽を聴く会

11月1日(金) ほか



足柄上郡内の11の小学校が集い、“芸術の秋”のシーズンに合わせて、主に4年生の参加を中心に“足柄上郡小学校音楽会”を松田町民文化センター大ホールで開催しています。今年度は“「1」ならび”の11/1(金)に、開成南小学校も4年生が参加して堂々と、合奏「スターウォーズ メイン・タイトル」、合唱「Change!」を披露してきました。



前日(10/31)朝の“4年生の音楽を聴く会”では、4年生保護者の方々と他学年の児童たちは、4年生の芸術を鑑賞するとともに、10/24(木)に学校代表として足柄上郡小学校連合体育大会に挑戦した6年生同様、音楽会へ参加する4年生を応援して送り出しました。



指揮者の教員を含めて100名を超える開成南小4年生の発表は、参加校中で一番多く、迫力があり素敵なステージ発表につながったと評価しています。しかし、収容人員1000名を超える本格的な音楽ホールのステージ上で発表した緊張感や照明等の眩しさなどは、もっと心に残る体験だったのではないのでしょうか。

「緊張感を減らし、練習の成果を発揮するためには?」「見られているステージの上で、うろたえず堂々とした姿を披露するために……」など、細やかな気配りや思いが様々にあったに違いありません。他校の芸術的な音楽に触発された児童もいたことと思われる。

みなみ風コンサートでの発表は、より完成度の高い芸術的な音楽の発表に仕上げました。よい経験と余裕が子ども個々を高め、それらが相まって生まれる素晴らしい芸術を体験できました。



本物の「弥一芋」を見たことありますか? 11月7日(木)



11/7(木)の朝、昇降口には”弥一芋”が飾られていました。生産者の方が展示用として届けて下さったそうです。この日の給食のメニューは”チキンチキン弥一芋”。開成町産の弥一芋は、かながわブランドにも登録の里芋の一種で、白さと甘み、ねっとり感が特徴です。

山形県では直径6.5mの大鍋と大型重機で一気に3万食分を作る「芋煮会」が有名ですが、開成南小のこの日の給食では、町内産の新米とともに味わいました。



季節のたより

WBSC 世界野球プレミア12は、日本の優勝で終了しました。

11月23日は「勤労感謝の日」。その年最後の祝日になります。

最近のプロ野球チームは、この日の近辺を”ファン感謝デー”に設定し、そのシーズンの総括や翌シーズンの新体制の紹介などの営業サービスを行っています。

プロ野球選手の契約期間は「2月1日~11月30日」と決められているので、このイベントを年間最後の球団行事に設定しているとも考えられます。所属チームの一員としてのファンサービスは、仕事柄、重要でしょうが、プロ野球選手個々は個人事業主としてNPBの各球団と契約しているので、12月と1月はチームとしての球団行事等は原則として無く、オフシーズンとなります。

テレビやイベント等へ出演したり、趣味に没頭したり、文字通りオフとして何も活動しなかったり或いはまた練習に励んだり、逆にメディカルケアに念を入れる選手もいるようです。体が資本の職種ですから、心身に感謝しストレス解消にもなる効果的な生活時間として活用するのでしょうか。

昭和の時代に、日本における全国規模の社会人スポーツリーグ第一号として誕生したプロ野球ですが、選手はスポーツの感動や競技レベルの高さを伝え、夢や憧れの対象及び生き様を示す見本としてのいわゆる「スポ根」のイメージも、時代とともに少しずつ変遷してきました。

「初めて、自分で自分をほめたいと思います」と語ったのは、アトランタ五輪マラソンメダリストでしたが、オフシーズンはこういう気持ちになるのでしょうかね。働き過ぎは「時代遅れ」とされる現在。様々に勤労に励む皆さん、お疲れ様です。(担当)

